

平成18年度こどもホタルレンジャーの表彰について

1. こどもホタルレンジャー

暗闇の中を飛び交うホタルの光は、古くから日本の原風景として大切にされてきました。こうした風景が多くの地域で失われてきた一方で、失われたホタルを呼び戻そうとする活動や残されたホタルを守ろうとする活動も広がってきています。

こうしたホタルを守り、水環境の保全へ取り組む子どもたちの活動を、「こどもホタルレンジャー」と名付け、平成16年度から「こどもホタルレンジャー」事業を行い、水環境保全活動のさらなる普及を図っています。

2. 受賞団体

平成18年7月10日～平成19年1月20日の間、募集を行い、全国から31団体（小学校の部20団体、中学校の部4団体、団体の部7団体）の応募がありました。審査委員会の審査結果を踏まえ、以下のとおり、環境大臣賞2団体、優秀賞3団体を決定しました。（各団体の審査概要については別紙参照）

環境大臣賞

小学校の部 いわき市立高野小学校 4年生（福島県）

中学校の部 広川町立津木中学校 総合学習ゲンジボタル研究班（和歌山県）

優秀賞

小学校の部 上田市立清明小学校 メニースターボタル（長野県）

〃 三次市立田幸小学校 ポプラ探検隊（広島県）

団体の部 堂々川ホタル同好会（広島県）

3. 表彰式・活動報告会

平成19年3月29日（木）13時30分より、環境省第1会議室（中央合同庁舎5号館22階）において、環境大臣賞及び優秀賞の表彰式及び活動報告会を行いました。



子どもたちが映像などを使い、元気いっぱい活動報告を行いました。



いわき市立^{こうや}高野小学校



広川町立^{つぎ}津木中学校（和歌山県）



上田市立^{せいめい}清明小学校（長野県）



三次市立^{たこう}田幸小学校（長野県）

4. 主催・後援

主催：環境省、財団法人水と緑の惑星保全機構

後援：文部科学省、農林水産省、国土交通省



どうどわか^わ堂々川ホタル同好会（広島県）

審査委員

小澤 紀美子 東京学芸大学教授

須藤 隆一 東北工業大学客員教授

菅原 浩志 映画「ほたるの星」監督、徳山大学客員教授

竹田 純一 里地ネットワーク事務局長、（財）水と緑の惑星保全機構事務局長

矢島 稔 ぐんま昆虫の森園長、日本ホタルの会名誉会長

井上 示恩 文部科学省初等中等教育視学官（兼）環境教育調査官

寺田 達志 環境省水環境担当審議官

受賞団体の活動レポートは、ホームページに掲載しております。

(<http://www.env.go.jp/water/info/hotaranger.html>)

受賞団体の審査概要

環境大臣賞

【小学校の部】

いわき市立高野小学校

(福島県いわき市、20人、小学4年生)

水辺や水辺林・里山から土壌まで幅広い関心を持ち、腐葉土による浄化能力実験など、様々な調査をすることで疑問を自ら解き明かそうという姿勢や、水環境が自然下でどのように保全されているかを理解する活動がすばらしいと評価されました。

【中学校の部】

広川町立津木中学校 総合学習ゲンジボタル研究班

(和歌山県有田郡広川町、20人、中学1年生～中学3年生)

ホタルの習性である発光パターンが、ホタルのコミュニケーションにどう利用されているかと、光害(ひかりがい)の影響についての研究、ホタルの生息に適した水環境調査が高く評価されました。

優秀賞

【小学校の部】

上田市立清明小学校 メニースターボタル

(長野県上田市、34人、小学校5年生)

地域の行政との連携し近自然工法の水制工を学び、工事に伴う「生物救出大作戦」を実施したこと、河川の水質や流れ方と、カワニナの量的変化の関係を発見したことなど、テーマを決めて活動したことが高く評価されました。

【小学校の部】

三次市立田幸小学校 ポプラ探検隊

(広島県三次市、13人、小学4年生)

地域住民や保護者の協力を得て、困難なホタルの個体数調査を実施したことや活動の成果を「ホタルピカピカロード」宣言として、水質保全を地域住民に呼びかけたこと、また自分たちで作成した下水ろ過用竹炭を販売し、今後の水環境保全活動資金に充てる試みなどが高く評価されました。

【団体の部】

堂々川ホタル同好会

(広島県福山市神辺町、6人、小学1年生～小学校6年生)

堂々川砂どめを利用したビオトープ作り、ほたる鑑賞会における光害(車のライト)防止活動など、自主的な活動が地域に溶け込んでおり、活かされている。活動のバランスがとれており、成果を上げている点が高く評価されました。